

## 2021年3月期第2四半期決算説明資料

開催日：2020年10月28日（水）

出席者：代表執行役副社長 文挾 誠一

代表執行役副社長 守谷 誠二

常務執行役 大槻 陸夫

説明資料：2021年3月期第2四半期決算説明資料

※ 機関投資家・アナリスト向け説明会は電話会議形式

### 【2021年3月期第2四半期連結決算の概要】

- まず、パワーポイントのスライド1をご覧ください。
- 今回の決算のポイントです。売上高は、競争激化や新型コロナウイルス感染症の影響で東京電力グループの販売電力量が減少したことなどにより、減収となりました。
- また、経常損益は、グループ全社を挙げた継続的なコスト削減に努めたものの、売上高が減少したことなどにより減益となりました。
- さらに、四半期純損益についても、前年度の特別利益の反動減などにより、減益となりました。
- 具体的な連結決算の数字については、スライド2をご覧ください。
- 売上高は、前年同期比10.8%減の2兆8,342億円と減収、経常損益も、10.1%減の2,248億円と減益となり、特別損益を加えた四半期純損益は、1,486億円と減益となりました。

### 【セグメント別のポイント】

- スライド3、4では、セグメント別の業績をご説明いたします。
- まず、東京電力ホールディングスの業績です。
- 売上高は、東京電力エネルギーパートナーへの卸電力販売の減少などにより、前年同期比537億円減の2,679億円、経常損益は、それに加え基幹事業会社からの受取配当金が減少したことなどから、809億円減の633億円となりました。
- 次に、東京電力フュエル&パワーの業績です。
- 経常損益は、JERAにおいて、燃料費調整制度の期ずれ影響が好転したものの、発電事業の収支

が悪化したことなどにより、前年同期比 131 億円減の 453 億円となりました。

- 次に、東京電力パワーグリッドの業績です。
- 売上高は、前年同期と概ね同額の 8,628 億円となりました。
- 一方、経常損益は、低圧需要の増加による託送収益の増加などにより、39 億円増の 1,238 億円となりました。
  
- 続いて、東京電力エナジーパートナーの業績です。
- 売上高は、競争激化や新型コロナウイルス感染症の影響などにより、販売電力量が減少したことから、前年同期比 3,816 億円減の 2 兆 5,192 億円となりました。
- 一方、経常損益は、東京電力ホールディングスからの購入電力の減少などにより、24 億円増の 459 億円となりました。
  
- 最後に、東京電力リニューアブルパワーの業績です。
- 売上高は、東京電力エナジーパートナーへの卸電力販売の増加などにより、前年同期比 203 億円増の 801 億円、経常損益は、185 億円増の 367 億円となりました。
- なお、連結およびセグメント別の前年同期比較の資料を参考として添付しております。

#### 【連結特別損益の概要】

- 連結特別損益については、スライド5をご覧ください。
- 特別損失は、原子力損害賠償費として 677 億円を計上いたしました。
- これにより、特別損益は 677 億円の損失となり、特別利益を計上した前年同期と比べ、2,685 億円の減となりました。

#### 【連結財政状態の概要】

- スライド6をご覧ください。
- 自己資本比率は、前年度末より 0.7 ポイント改善し 25.0%となりました。
- これは、当期純利益が引き続き黒字であったことで純資産残高が増加したことなどによるものです。

**【2021年3月期業績予想】**

- 当社は現在新型コロナウイルス感染症による当社事業への影響を見極めながら、新たな特別事業計画の見直しを進めているところです。2021年3月期の業績予想については、特別事業計画（新々・総特）の改定時にお示しすることを考えております。こちらについては、市場動向や新型コロナウイルス感染症が、当社事業に与える影響の範囲や大きさなどにおいて、さらに慎重に見極める必要があると考えており、取りまとめ次第、お知らせさせて頂きたいと思っております。

**【参考資料（スライド7以降）、補足資料（スライド15以降）】**

- スライド7以降は参考資料および補足資料です。

以 上